

スローモーション

中本祐子

自動ドアが開いてまごまごしている

「どこでもどうぞ」と

表情のないウェイトレスさんの声

近頃はどこもかしこも人間不足で

友人は牛しゃぶカレー

私はネギトツピングの牛丼を

タッチパネルでなんとか注文できた

ほどなく

お店にたった一人のウェイトレスさんが

左手に牛丼のお盆を右手にカレーのお盆を

持ってやってきた

席まであと三歩というところで

歩みが止まり

何かに躓いたのか

もつれた足をほどこうとして

両手に持ったお盆をグラグラさせて

もがいている

お盆を支えようと

思わず席を立った瞬間

左手のお盆が傾き

刻んだネギと肉が床にぶちまけられた

右手にあったカウンターにバンとおかれたお盆は

皿からはみ出したカレーがこぼれ散った

「ああ、遅かった」とつぶやく私と

放心状態のウエイトレスさん

ここは

ワンオペで働いていた明け方の従業員が
倒れても三時間発見されなかったお店

彼女が足をもつらせ

必死の形相で

グラグラするお盆を

細い指で支えていた瞬間を

わたしはまるで

スローモーションのように見たのだ

ロボットでなくてよかった

頼んだ料理がめちゃくちゃになっても

人間でよかった